

其儀何故に號初めしや、水源にイシカリ岳あり、其より來る川なる故なり、又一説に、イとはイシ

ヤにて無と云儀、シカリとは塞ると申事にて、此川筋屈曲して塞り見へざる故號る哉、地名地形

西北向にして、總て平地、地味濱より七八町上より眞土に成、濕地多く、草生宜しく、追々陸になる

程樹木蕃茂したり、昔は當川筋十三ヶ處に分たり、トクヒタ、シユマ、ツフ、上下ツイシカリ、ハツ

ユウハリ四百九十二人、上ユウハリ三百七十二人、下サツホロ百九十四人、下カハタ百七十二人、下

人、ナイホ廿九人、上サツホロ百九十四人、シノロ百廿八人、ベ三千六十七人、文化六年改、其頃は

如此人別も有しを、此餘上川には六百人計も別になりしが、今は追々人員減じぬ實に遺憾なら

ずや、文政壬午改千五百七十八人、

アツタ領、アツタ、譯して楡皮取といふ儀にて、此川楡皮多きが故に號し也、中略昔し此運上や

アツタに有りしが、故、場所の總名となせども、今の運上屋の地は、本名ヲシヨロコツと云處なり、

其譯懷の地と云、此灣の好きより號しと云、中略ヲシヨロクチ、運上、中略地形西戌向にして、後ろ平

山前は崖に柵を結て、其下暗礁多し、前船泊にして大船を容る、並てニウフツ、石狩出稼や立並び、

頗る繁華の地也、土人多し、文政壬午改九百九十二人、年々和人の入込高壹万人餘もあるべし、

濱益毛、本名マシケイにして、宜しきと云儀なれども、是同名あれば、濱の字を冠らしめて、當所

の地名とす、地名解、濱益毛、運上、中略地形ヲフイ岬、ヲカムイ岬の大灣中、またアイカフホロクンへ

ツ岬の小灣をなし、未申向にして、風波常に荒く、左にウカシユマ、右にテキサマの間、澤目深く、後

ろ峨々たる高山、中略土人多し、文政壬午改八十四軒二百九十七人、此邊地味宜しく、總て漁事の暇

には畑作をなす也、

〔西蝦夷日誌六編〕増毛、マシケ、譯て宜敷事を取る也、其義をまた譯せば、マシは鷗の事にして、ケ

はケイの略にて、成るとの義也、中略マシケ運上屋、註地形北向ノツカとハシベツ岬の間の一

灣をなす、依てホロ泊の名ある也、中略土人多し、文政改三十七軒四百三十七人、此處に十一軒家